



AA日本ニューズレター

No.181

■ 兄弟・姉妹の絆を生み出す AA コミュニティとその社会的役割：南米ペルーの事例より

マギル大学大学院多文化精神保健プログラム 山口 沙樹子

私は、現在、南米ペルーのアヤクチョ県にて、「政治的暴力(1980年-2000年)の歴史及びトラウマからの回復とアンデスの文化・社会的要素が、どのように人々の現在の飲酒のパターンを作り出しているのか?」について、2016年7月より、調査研究を行っています。その中で、アヤクチョ県アヤクチョ市(人口約10万人)にある6つのAAのグループの内の一つ「Grupo Rikchary」(Rikcharyとは、ケチュア語で「目覚める」という意味)の毎週日曜日のミーティングに参加させていただいています。本ニューズレターへの寄稿を通じて、ペルーのAAの活動状況及びこれまでのミーティングの参加を通じて感じたことを共有させていただけたらと思います。

ペルー国アンデス山岳地域のアヤクチョ県では、先住民ケチュアの大量飲酒、近年では、未成年の飲酒による健康被害及び家庭内暴力が深刻化しています。飲酒の増加は、1980-2000年の内戦中に家族や友人を失った悲しみ・癒えない喪失感、死と常に隣り合わせの環境下で生まれた恐怖心などの心理的トラウマおよび極度の貧困に対する自己治療と理解されてきました。

また、アンデス社会には、カトリックの聖人を祭った祝祭儀式があり、老若男女を問わず、住民が食事やお酒を共にし、夜遅くまで、踊りや音楽を楽しみながら、互恵関係(ごいかんけい/互いに利益を得る、または利益を与え合う関係のこと)を確立してきた伝統的慣習が今でも続いています。

他方で、内戦後、都市化や経済発展が進み、飲酒の機会が増えると同時に、親の愛情や監督の不足に加え、アルコール販売に対する規制が不十分な中、愛情不足を埋めるため、友人と12-13歳で飲酒を開始する未成年、毎週末、週末前に支払われた給与をアルコールに費やす労働者、家族や恋人との関係の問題から飲酒を始め、依存まで至る成人男女など、多量飲酒は個人の健康問題に加え、社会問題として認識されています。



(ミーティング会場の様子。右上にAAのマーク。)

各メンバーが「Hermanito/Hermanita」(スペイン語で、兄・弟/姉・妹)と呼び合っていることです。職業や性別・年齢に関係なく、お

互いに「兄さん」「姉さん」と呼び合う姿は、メンバー間で家族のようなつながりが自然と生まれてくるのを感じています。ミーティングの最後には、参加者が手をつなぎ、円になって、祈りの言葉を唱えた後、お互いに抱き合い、24時間をソブラエティで過ごしたことを讃えあいます。

メンバーの中には、幼少期に家族から十分な愛情を受けられない家庭環境に育った方もおり、「AAのミーティングの終わりに、皆で手をつなぎ、ハグされた感触が忘れられない」と話していたメンバーもいます。また、「AAによって人生が180度変わった」という声をよく聞きますが、このAAで出会った兄弟・姉妹のサポートに



よって、アルコールリクとしての新しい生き方が形成されているように思います。

アヤクチョ市内には、6つのグループがありますが、

(配布カードやグループ創設記念イベントのパンフレット等。)

メンバーが4、5名で、メンバーのモチベーションを維持し、ミーティングを続けていくことが難しいグループも存在しています。その中で、他のグループのメンバーがミーティングに参加して励まし合う、新しくやってきたメンバーへのサポートを行うなど、フォローアップを通じて、AAの活動継続のための努力がなされています。また、出張や新しい仕事を求めて、他県へ不定期に出かけるメンバーも多くなります。アヤクチョ県外に仕事で出かけても、常に「AA」の青色の看板を探し、移動先の県のAAのミーティングに参加したり、また近隣の県から仕事でアヤクチョ市を訪れ、アヤクチョ市のグループのミーティングに参加し、他県におけるAAの活動状況を共有しながら、地理的垣根を越えたメンバー間の交流が常

になされています。

アンデスの先住民ケチュアの文化において、家族・親戚の血縁・地縁組織は、「Ayllu」(アイユ)と呼ばれる「コミュニティ」としての共同体の概念があります。AAのメンバーは、AAをコミュニティと呼んでいます。グループ内のみならず、アヤクチョ県内・県外のグループ間での兄弟・姉妹のような絆が築かれている様子は、このAyllu=コミュニティを映し出しており、AAの「一体性」を体現しているように思います。

前述のとおり、アヤクチョ県はペルー国内でもアルコールの消費量が極めて高く、それに伴い、依存症を含む健康被害のみならず、家庭内暴力や飲酒運転等の社会的問題も深刻化しています。他方で、日本と異なり、臨床心理士や精神科医、アルコール依存症に関するトレーニングを受けた看護師などの医療従事者は極めて限られており、アルコールに対する医療サービスは充実していません。そのような環境において、AAのメンバーは、警察や保健所、市役所等に、AAのカードを配布したり、アルコールが多く集まる広場で、個別に声をかけ、AAの存在を知らせる活動を続けるのみならず、ラジオでの広報、地元の中学・高校において、メンバーの過去の経験共有およびAAの活動を紹介する活動など、社会のニーズに応える活動を積極的に展開しています。「助けが必要なアルコールに手を差し伸べることが自分の生きる喜び」と語りながら、回復のプロセスを歩むAAメンバーが果たす社会的役割は極めて大きいと感じています。

最後に、2017年9月1日から3日にかけて、このアヤクチョ市において、4年に1度のAAの国内コンベンションが開催されます。ペルー国内のAAメンバーのみならず、メキシコ・コスタリカ・米国・カナダのAAからも、すでに参加希望の声があがっているそうです。アヤクチョのAAの複数のグループのメンバーからは、「ぜひ日本のAAのメンバーの方の参加をお待ちしております。たとえ言葉の壁があっても、AAのメンバーとして、その壁を越えて通じ合えるものがあります！」とのメッセージが届いています。



※コンベンションに関する情報は、

ホームページ:<https://www.facebook.com/people/Convención>

-Nacional/100013436474520

メールアドレス:convencionnacionalaaperu2017@gmail.com

■ WSM 評議員就任のご挨拶と、 第 24 回 WSM(ニューヨーク開催)参加報告

WSM 評議員 森田

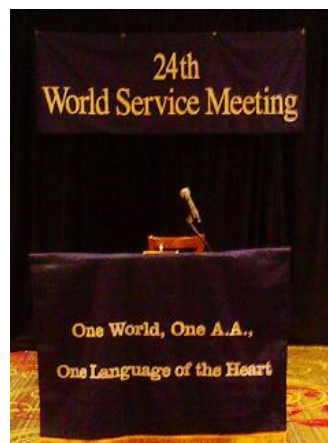
AAメンバーの皆様、そしていつもAAにご理解とご協力をいただいているAAの友人の皆様、こんにちは。今年度よりWorld Service Meeting Delegate(通称WSM評議員)に選出されました森田です。2016年～2020年3月までの四年間の任期、精一杯奉仕させていただきますと考えています。よろしくお願いたします。

簡単に自己紹介をさせていただきますと、1993年11月よりAAでソプラエティーをいただき現在23年の飲まないで生きる毎日を過ごしております。東京の荻窪がホームグループで、2002年から2007年まで地域評議員と全体サービス常任理事の役割をさせていただきました経験があります。当時は田辺先生、大河原先生、佐古さんといったA類の先生方のご協力をいただきながら役割を全うできたことに、ここで改めて感謝の意を表したいと思います。AAの活動を助けていただき本当にありがとうございました。

わたしは専門学校の教員の仕事をし、その後退職してから大学の学部と大学院で勉強する生活が一区切りついて、海外や地域報告に出かけるための自由に使える時間が十分あるこのタイミングがチャンスだと思い、ワールドサービス活動への貢献に手を上げさせていただきました。

早速ですが今年10月下旬にアメリカ合衆国のニューヨークで公式な会議に参加させていただきましたので報告したいと思います。会議日程は概要としては以下のようなスケジュールでした。

日程	10/23～27	10/28	10/29～31
内容	WSM 本会議	GSO 訪問	常任理事会見学



WSMはワールドサービスミーティングの略で、AAのサービス機構がある各国から2名ずつの参加が許されていますが、今回日本からは1人での参加でした。59名の評議員が分かち合いをする会議でした。アメリカカナダのGSO(ゼネラルサービスオフィスの)所長が基本的な司会進行をし、GSO職員がセクレタリーとして会議を支えています。またスペイン語や日本語の通訳ボランティアが言葉の障壁を取り除いてくれます。WSMは西暦の偶数年に開催され続けており、今回は第24回目の会議でした。ニューヨークと他の国の都市とで交互に開催され、前回は二年前のポーランドのワルシャワで開催でしたが、次回は二年後の2018年10月に南アフリカ共和国で開催されることが決定されています。

西暦の奇数年には AOSM(アジアオセアニアゾーンのサービスマーケティング)が開催されます。ヨーロッパやアフリカ、アメリカ大陸などのゾーンでも同様のようです。アジアでは AOSM が昨年中東のドバイで開催され、来年 2017 年 7 月にはモンゴルで開催される予定です。AOSM のほうは毎回開催国が変わります。AOSM は 1995 年と 2007 年に日本が開催国となっています。

さて WSM の五日間の会議はとても長いという印象でしたが、だいたい朝 9:00 から始まって午後 6:00 くらいには終わります。日本の評議会とよく似ていて、それぞれの会議単位が一時間半から二時間くらいのコマになっており、四つくらいの分科会に分かれて議論する時間と全体で報告や分かち合いをする全体会議の時間があります。全体会議での発言はマイクの前に行ってみんなの前で話します。評議会と違うのは夕食後にはプログラムがないので、ゆっくり休むか仲間とミーティングなどに出かけるか、自由に自分のペースで五日間過ごせるということです。



(アメリカ/カナダ GSOの玄関口)

近隣のまだ AA が発展していない国に手助けをしたり、書籍が翻訳されていない言語へのサポートのための基金について話し合ったりということが話題としては多かったと思います。今回の WSM のテーマは「“One World - One A.A. - One Language of the Heart” 一つの世界、一つの AA、心の言語は一つ」でした。

分科会は二種類あって、一つは日本の評議会のように議事、広報、財務といった専門委員会で WSM の運営について勧告や方針を出していくというものです。もう一つは具体的なテーマを定めた分かち合いでワークショップと呼ばれているものです。15 人程度の分科会ですので、全体会議よりも少し気楽に発言することができます。今回のワークショップの題材は、「恨みの作用」「世代間コミュニケーション」「献金の霊性」といったものでした。

全体会議には四種類くらいのプログラムがあって、それらがランダムに組み合わせられ進行していきます。分科会報告を受けて全体で採決する場面は少しであり、大部分は他の国の話を聞く時間に割かれていました。プログラムとしては 1). 各国前期評議員 (first term delegate) によるカントリーハイライト、2). 各国後期評議員 (second term delegate) によるテーマ別プレゼンテーション、3). 自由な分かち合い (general sharing session)、4). 分科会からの報告や AOSM などのゾーンミーティングからの報告、といったようなものでした。

会議の中身は基本的に各国の AA が自国の問題を分かち合い、お互いの経験を話して解決策を探っていくというものでした。

わたしは日本の現状報告として、40 周年集会開催とここ数年の NPO 法人問題での評議会での激しい議論があった話をしました。このような問題は他国でも経験があり、貧しい国は貧しい国なりの解決を、豊かな国は他国や地方を支える側になる中で解決の手段がたくさんあることを知りました。この WSM 会議の後、日本より大きな規模の法人やサービス機構をうまく回転させているアメリカカナダの常任理事会にオブザーバー参加するチャンスも与えていただきました。ここでも多くのことを感じることができましたし、GSO の中枢にいるスタッフや理事会メンバーに直接いろいろなことを質問し、日本が将来目指すべきモデルがイメージとして描けたような気がしています。

これから一年くらいかけてこの貴重な経験の報告を各地域集会などに出向いてメンバーの皆さんの前で直接行わせていただきます。地域評議員を通して WSM 報告の場を用意してください。要望があれば地域単位以外にも対応する用意があります。よろしくお願いたします。

■ JSOより

これは、グレープバイン誌(1984年1月号)に掲載された投稿を、日本のBOX-916(1999年7月号)に許可を得て転載したものです。今号と次号に分けて再掲載いたしますので、どうぞご一読ください。

初めて来た人向けのビギナーズ・ミーティング

(グレープバイン 1984年1月号より。許可を得て、翻訳・転載)

初めて AA にやってきた人のなかには、いやいや来ている人や、AA のことを誤って教えられてきた人が数多くいる。そういう人たちにいったいどうやってメッセージを運んだらよいのだろうか？ここに一つの解決法がある。

AA の原理に重点を置き、伝統をガイドとして、特別に設けたビギナーズ・ミーティングである。

隅の方に座っていた、あの初めて来た人にミーティング後に話しかけようとした人は一人もいなかったとか、その人のことに気がついた時には、すでにそっと抜けて帰ったあとだったというようなことがいつものミーティングで度々起きてはいないだろうか。そして次の機会には、ステップ 12 の責任をもっと認識しようとするものの、同じことを繰り返してしまふ。

裁判所から差し向けられて来た人たちが、不機嫌に、うらめしげに、ミーティングが終わることだけを待ちながら座り、持参のカードにサインをもらうやいなや立ち去っていく光景をよく目にする。ミーティングで話されたことが、まだ苦しんでいるアルコールの耳には届かず、何の希望をも手渡すことが出来なかったこともよくあることだ。

また、しばしば、誤解から薬物依存症者が AA に差し向けられたときにはどうであろうか？彼らが薬物で酔ったときの話に耳を傾けねばならず、それでも失礼になってはいけなくと努めているホ

ームグループのメンバー間で、意見の衝突が起こることにもなりかねない。

このような問題が、われわれの地区でも目に余るようになったため、それに対応できるようなビギナーズ・ミーティングを設定することにした。そして、私たちの地区の施設委員会・チェアパーソンから、実行委員会の計画が発表され、このミーティングは大盛況となった！

私たちの地区のグループは、とても「伝統」を大切にしていることで定評があり、メンバーの多くはどの伝統にも問題なく、この目的を達成できるかどうか非常に関心を払った。

伝統 2—「私たちのグループの良心のなかに自分を現される、愛の神」—は間違いなく効果を示した。そして伝統 1 の「優先されなければならないのは全体の福利である」も、然りである。

全グループから集められた地区の費用は使うべきでないことが同意された。それは、グループの中にはそのようなビギナーズ・ミーティングを支援するためにお金を出したつもりはないというところも、この問題の解決には別の手段の方がよいと思っているところもあると考えられるからだ。……伝統 4

早速、数グループからこのために献金することが決められた。また、パンフレットや書籍を寄付してくれたグループも、コーヒーや必需品を買うようにと献金してくれた仲間もいた。

このビギナーズ・ミーティングは、「いま苦しんでいるアルコールクにメッセージを運ぶ」という第一の目的(伝統 5)にあくまでも忠実に行うことを決定した。そして毎回のミーティングで伝統 6 を強調し(従属関係を持たないこと)裁判所や治療施設から差し向けられて来た人々には、出席状況をそれらの機関に報告しないものであることを、けれども「協力」の精神にのっとり、その人たちが持ってくる出席カードには、チェアパーソンがサインをすること、伝統 12 により彼らのアノニミティは尊重されること、つまり各個人のプライバシーは守られ、ミーティングで話されたことはその場だけのもの、外部では話されないこと、同時にこれは、初めて来た人々にも願います。……これらのことを毎回、ミーティングの中で話していくことにした。

伝統 6 に従い、ミーティング会場の選定にも細心の注意を払った。裁判所や、市役所の一室を提供したいという申し出を受けたが、裁判所では初めて来る人が恐れをなす可能性もあり、また協力関係というよりはむしろ従属しているように受け止められるのではないかと心配する意見がでた。そこで、ある熱心なメンバーが町の中心部にあるコミュニティ・センターの地下の一室を探し出してきて、そのメンバーは伝統 7 のわれわれが自立しなければならぬ意味を懸命に話した。センターの使用料は無料であったが、私たちはごくわずかではあったが、毎月賃貸料を支払うことにした。

このような様々な準備が進められていく一方で、「新しい人を迎えるために」(AAGSO発行)のセットを参考にして、ミーティングのやり方についても考えを練り、チェアパーソンの任期を6週間とし、副チェアパーソンも同時に出席して準備し、次の役割を担う輪番制を決定した。

ビギナーズ・ミーティングが5年も前から、100kmほど離れた隣の地区で行われていると聞いて、早速何人かが一緒に見学に出かけた。やはりそこでもGSO発行のセットが基本として利用されていた。次にその地区のチェアパーソンに私たちの地区に来てもらい、話をしてもらうことにした。みんなの関心は高く、会場に入りきれないほどの出席者がその提案を聞こうと集まった。

そこから学び取ったことは：

- ◎ビギナーズ・ミーティングはいつも同じ場所で行うようにすること。
- ◎円滑に継続させていくこと。
- ◎「権威者」がいるような雰囲気を作り出さないこと。
- ◎AAには専門家はいないことを初めて来た人にわからせること。
- ◎ミーティングに参加し、ミーティングをリードしていけるような、よく理解しているメンバーを用意しておくこと。(最低1年のソプラエティがある人が望ましいと決まった)
- ◎可能であるなら、他のAAミーティングとは時間も場所も別にしてミーティングを行うこと。
- ◎グループのAAメンバーには、ミーティングを独占しないよう、時間の配慮をお願いしておくこと。
- ◎AAには「馬鹿げた」質問はなく、どのような質問であっても許されることを、初めて来た人に知らせること。
- ◎簡単に(KEEP IT SIMPLE！)
- ◎スローガンをうまく用いていくこと。

私たちが目的とすることは、AAは何が出来て何が出来ないかを、新しい人たちが理解出来るよう伝え、分かち合い、手助けしていくことである。その予備知識として[AA以外の会合で話をするには]というパンフレットをよく読んでおいた方がよいという提案を受けた。

あらゆる準備体制を整えるのに約4ヶ月を要した。よく話し合い、読み、あちらこちらへと出向き、そして頭を使った。私たちのAAの伝統は守られ、知らせは広まった。初回のチェアパーソンと副チェアパーソンが選出された。それ以外の人たちも、輪番制で順番が回ってきたときは、いつでも引き受けられるように、名簿に加えられた。この新しいビギナーズ・ミーティング…AAによるAAについてのミーティング…を活用してもらえよう、裁判所、刑務所、治療施設、福祉機関にも熱心をお願いした。もちろんメンバーたちにも、新しい人に勧めてみるように頼んだ。

(次号に続く)

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休